

司書教諭によるカリキュラム・マネジメントへの寄与

西 巻 悦 子*

The contribution of teacher-librarians to school curriculum management

etsuko NISHIMAKI*

Abstract

This paper aimed at clarifying how school libraries can, based on the efforts of teacher-librarians, interact with enrich school curriculum curricula managements of school education, from viewpoints of the school library management. I conducted a literature search and found revealed that those literatures rarely mention about few references to the utilization of school libraries in the curriculum management of school education. H; however, I found the following characteristics when I looked into examined actual curriculum managements executed by teacher-librarians. 1) Teacher-librarians, who administered carry out the library management proactively, and enthusiastically often and intentionally approached to contribute to the devising of curriculums. 2) Students were, as a result, more likely to utilize printed materials and other library media to support their studies by liaison with subjects, the students utilized book materials and media. 3) When Teacher-librarians made efforts to connect forge links between the library management to and the school curriculums curricula. T, the whole school recognized benefited from such these efforts, due to the encouragement and utilizations of the use of school library media were established. These show that the participation of teacher-librarians in curriculum managements of teacher-librarians, administering school library management, in the curriculum management of school education can thus be concluded to greatly contribute significantly for improving school management overall.

1 はじめに

1.1 研究の背景

2017年2月に中央教育審議会の「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が出され¹、カリキュラム・マネジメントの重要性がうたわれた²。そこには、「各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿

や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという『カリキュラム・マネジメント』の確立が求められる。」³とある。それをうけ、次期学習指導要領では学校経営にかかわる課題としてカリ

*駒沢女子大学 非常勤講師

キュラム・マネジメント⁴が明示され、「論点整理」として、「第2 教育課程の編成」の中に、「(2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るもの」⁵とあり、カリキュラム・マネジメントに学校全体として取組むことが明示された⁶。

こうした学校全体としての取組みは、2000年の教育改革国民会議において、学校に組織マネジメントの発想を取り入れる提言がなされている⁷。それをうけ、学校教育の現場で組織マネジメントに取り組んできた。しかし、学校図書館が、組織としてカリキュラムおよびカリキュラム・マネジメントにかかわる組織として学校全体に認識されてきただろうか。

一方、学校図書館司書教諭講習規程⁸における「学校経営と学校図書館」の科目⁹では、「教育課程と学校図書館」についての項目があり、講義内容では、司書教諭の役割がカリキュラム編成にかかわるとされている¹⁰。また、全国学校図書館協議会から出されている司書教諭のテキスト『学習指導と学校図書館』¹¹に次のような記述がある。

学校全体の組織マネジメントとカリキュラム・マネジメントをするのは最終的に校長であるが、実質、「教育課程」を編成するのは校務分掌に位置づけられた研究主任・研究部である。(中略) 編成された「教育課程」を具体的に実施・実践したり、校内研究計画に基づいて具体的な実践をするとき、各教科・領域の実践や研究を支えるのは、読書センターであると同時に学習情報センターとしての学校図書館であり、カ

リキュラム・コーディネーターとしての司書教諭や学校司書である¹²。

つまり、学校図書館には、図書資料を含む情報メディアの収集・管理・提供のみならず、学校全体の組織マネジメントとカリキュラム・マネジメントにかかわる必要があり、そのためには何らかの方策を提言し実践することが求められている。そこで、2018年の次期学習指導要領にカリキュラム・マネジメントが取りあげられている状況において、現在の学校現場において学校図書館はカリキュラム・マネジメントにどのようなかかわりを持ちどのように認識しているかについて明らかにしておく必要があると考える。

1.2 用語の定義

用語については、次のように定義する。

学校経営については、永岡順が「学校における諸活動を計画し、組織編成して教育効果をあげるのにふさわしい教育機関としての学校を運営していく統括的作用」¹³と定義していることをふまえる。カリキュラム・マネジメントについては、中留武昭・田村知子が「カリキュラム・マネジメントとは、各教科の単元の教科内容のマネジメント（運営）のみではなく、それを含めて、学校全体のトータルなカリキュラムを教育目標の達成に向けて動かしていく（機能させていく）こと」¹⁴と述べ「各学校が教育目標の達成のために、児童・生徒の発達に即した教育内容を諸条件との関わりにおいてとらえ直し、これを組織化し、動態化することによって一定の教育効果を生み出す経営活動である」¹⁵と定義している。そこで本稿では、カリキュラム・マネジメントとは、各学校が、学校図書館等の諸条件を包摂・勘案しながら、学校の教育目標の実現に向けて、学校の教育課程全体の質的改善を図る方策とする。学校図書館経営について

は、渡邊重夫が「学校図書館の目的を実現するために、図書館運営の方針を立て、必要な組織をつくり、諸資源（人、メディア、施設・設備など）を効率的に編成しながら、学校図書館事業を継続的に実行すること」¹⁶と述べていることをふまえ、本稿では学校図書館経営とは学校図書館の目的を実現するために、方針を立て、必要な組織をつくり、人、メディア、施設・設備などの諸資源を用い、学校図書館事業を継続的に実行することとする。

1.3 先行研究

カリキュラム・マネジメントと学校図書館の先行研究では、2006年に関野栄子が小学校の言葉による表現力を伸ばすためにカリキュラムマネジメントモデルを作成したことについて報告している¹⁷。しかし関野が作成したカリキュラムマネジメントモデルに学校図書館が含まれていない。鎌田和宏は2017年にカリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングが次期学習指導要領の理念とカリキュラム・マネジメントおよびアクティブ・ラーニングは方向性が一致するもので、児童生徒の自発的学習行動を促すと指摘している¹⁸。しかし、カリキュラム・マネジメントと学校図書館のかかわりについて具体的な言及はなされてない。カリキュラム・マネジメントによって学校図書館が組織として一定の役割を担うことを明らかにしたのは、川瀬綾子、西尾純子、村上 泰子、北 克一らの「マルチメディアと図書館」研究グループによる「教育の情報化時代の『チームとしての学校』と学校図書館の役割（特集・第58回研究大会グループ研究発表）」である。学校図書館の目的・機能、運営、利活用、教職員等の人、図書館資料等について分析し、学校図書館の役割・機能を再検討している¹⁹。ただし、学校教育現場での具体的な実践については言及していない。

1.4 研究の目的・研究の方法と研究の範囲

本研究の目的は、カリキュラム・マネジメントの実践報告において学校図書館がどのように認識されているかを明らかにすることである。研究方法は文献研究である。教育目標の達成を図るための諸条件の一つである学校図書館の目的は、学校教育を充実することにあるから学校の目的および目標と同一であるとされる。それを受け学校図書館の経営を掌る人である司書教諭の経営管理活動から論じる。

学校教育のカリキュラム・マネジメントの実践報告において学校図書館の人や図書資料を含むメディア等の諸資源がどのように取り上げられてきたか、それは学校図書館と関係づけられているのか、実践事例の報告から調査する。そのうえで、学校図書館を活用してカリキュラム・マネジメントを実践した司書教諭はカリキュラムへの認識をどのように深め、どのような組織や分掌と連携していったかその過程を明らかにする。それによって、今後のカリキュラム・マネジメントにおいて司書教諭は学校教育の質の向上にどのような貢献が可能か、具体的にどのような手立てがあるか、そのために必要なことは何かについて示唆を得ることができる。と考える。

そこではじめに、学校図書館の資料を用いたカリキュラム・マネジメント実践事例の報告について分析検討した。分析対象範囲は、カリキュラム・マネジメントの用語が登場し²⁰、「総合的な学習の時間」が新設された1999年以後のカリキュラム・マネジメント理論について収集したデータを学校図書館経営の諸資源を渡邊が「人、メディア、施設、設備など」²¹と定義していることをもとに、「人、メディア、施設、設備など」の3点を分析の視点として分類し比較検討する。次に、カリキュラム・マネジメントに基づいた学校図書館活動に注目し、司書教

論が学校図書館活動を通してカリキュラム支援を行っている事例報告を取り上げ、年次を追ってカリキュラムとの関わりを分析する。また、学校図書館における人は司書教諭に限定する。理由は、2014年3月の「学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議（報告）」²²では、学校図書館担当者は「教育指導への支援」に関する職務を担っていくことが求められるとされたが、2014年6月の「学校図書館法の一部を改正する法律案に対する附帯決議（参議院）」では、「学校司書の教育的役割を十分に考慮した位置付け、職務の在り方、配置の促進、資質の向上のために必要な措置等について、検討を行うこと」²³とし、学校司書の職務は今後の検討課題であるとしているため、本稿では学校司書の活動を対象としない。

1.5 本稿の構成

本稿は5章からなる。1章では、研究の背景・用語の定義・先行研究・研究の目的と方法・範囲、および本稿の構成を述べ、2章では、カリキュラム・マネジメントの実践における学校図書館経営の諸資源への言及を分析し検討した。3章では、学校図書館経営におけるカリキュラム支援について分析し検討した。4章では、司

書教諭のカリキュラム支援とカリキュラム・マネジメントについて分析し検討した。そこから、司書教諭による教育課程への支援の諸条件について考察する。5章では、結論として学校図書館経営とカリキュラム・マネジメントとのかわりを明らかにした。

2 カリキュラム・マネジメントの実践における学校図書館諸資源への言及

カリキュラム・マネジメントの実践において図書の利活用がみられる5つの文献を、学校図書館の諸資源3点を分析視点とし分類したのが表1である。

2.1 カリキュラムへの意識

人のカリキュラム意識では、知の促進者としての役割、カリキュラムと内容上の連関性や関係者の協働性、カリキュラム開発に重点化した経営、弾力的な時間割の運用ことが述べられている。カリキュラムをどのように捉えるかが明確になっている。

2.2 図書資料含むメディアの利活用

図書資料含むメディアの利活用では、通信機器や情報ネットワーク、教育資源（resources）

表1 カリキュラムマネジメント・図書

論題名	著者名	雑誌名	人のカリキュラム意識	メディア(図書資料含む)利活用	学校図書館設備の利活用
1 実践からのカリキュラムマネジメント(特集 2002年は目前・克服すべき課題) - 「総合的な学習の時間」今からどう準備すべきか	溝辺 和成	現代教育科学 42(2), 57-59, 1999-02	知の促進者としての役割	通信機器、情報ネットワーク	
2 今度こそーカリキュラムマネジメントを基礎にした“学校改善”の本格化へ(特集 二十一世紀型学校づくりの可能性を探る) - (提言・二十一世紀型の学校像-「総則」が期待する課題とは)	中留 武昭	現代教育科学 42(9), 14-16, 1999-09	内容上の連関性、関係者の協働性	教育資源との協働	
3 いま管理職に必要な“カリキュラムマネジメント力”とは-積極的に「打って出る」戦略家としての力量を(特集 教育課程に総合的学習・どこが変わるか)	田中 統治	学校運営研究 38(16), 12-15, 1999-12	カリキュラム開発に重点化した経営	資源(resources)	校内にカリキュラムセンターをつくる
4 タイムフリーとカリキュラムマネジメント(特集「学校の特色」をどこに求めるか) - 「自分の時間割で「学校の顔」をつくる」	小林 毅夫	現代教育科学 43(1), 32-35, 2000-01	弾力的な時間割の運用	読書。自分の意見を絵本や物語にまとめる	校内カリキュラムセンターで研究推進
5 学校選択制と特色ある学校づくりの方向-カリキュラムマネジメントの基軸を探る方向性(特集 教育改革時代の校内研修-緊急テーマ23) - (取り上げたい校内研修のテーマと「研究の現状」-何が何処まで明らかになっているのか)	中留 武昭	学校運営研究 40(5), 37-39, 2001-04	教育活動との間に連関性をもたせる		

との協働や読書を基に意見を絵本や物語にまとめる活動にも言及があった。資料提供にどのような施設・設備がかかわるかは明示されていないが学校教育での実践であることを考慮するならば学校図書館の利活用は自ずと想定される。

2.3 施設と設備

施設と設備では、校内にカリキュラムセンターを作り研究推進を行ったという報告があった。一方、全国学校図書館協議会の機関誌である雑誌『学校図書館』において学校図書館とカリキュラムに関する文献を年代順に整理したのが表2である。

①の人では、司書教諭・学校司書を含む学校図書館担当者が、全職員の理解と協力を得ること、レファレンスツールを提供すること、コンピューター教育担当との密な連携を図ること、学校教育目標の一つに図書館教育が位置づけられるべきことを述べている。また、学校長は、学校経営方針で学校図書館教育を学校経営の中核に据え、カリキュラム化に取り組むべきだと述べている。②の図書資料を含むメディアでは、情報教育活動計画、年間指導計画、教育課程の

編成、レファレンスサービスの提供、情報メディアリテラシー等多岐にわたっての計画と指導との必要を述べている。③の施設と設備では、学校図書館を使った教科学習での利用と図書館による授業支援を述べている。

2.4 本章のまとめ

以上のように、学校経営においてカリキュラムとの関わりで教育資源への言及があるが、学校経営の下位概念としての学校図書館経営には言及していない。一方の学校図書館では、学校経営全体を見通した教育課程支援の方策についての言及がない。

3 学校図書館経営におけるカリキュラム支援

学校経営と学校図書館のうち1999年以後の31件から前述した3視点で論じている論文を抽出し、1. 担当する人のカリキュラムへの意識、2. メディア（図書資料を含む）利活用、3. 学校図書館設備の利活用に絞り、内容を分析したのが表3である。

表2 学校図書館における学校経営およびカリキュラムへの関わり(雑誌『学校図書館』記事)

論題名	著者名	雑誌名	人(職種)のカリキュラム意識	メディア(図書資料含む)利活用	学校図書館設備の利活用
1 学校経営に位置付けた学校図書館指導計画	井上光子	『学校図書館』630号, 2003, p. 33-34.	(司書教諭)全職員の理解と協力を得ることが重要。	指導計画構想から情報教育(学校図書館・視聴覚)活動計画、年間指導計画をたてTT的に授業に関わっている。教育課程の編成に合わせて修正していく。	必要な時に自由に使えるように図書館改造に取り組んだ。
2 自校のカリキュラムに合ったレファレンスツールの作成	宗 愛子	『学校図書館』657号, 2005, p. 28-30.	(司書教諭 司書)レファレンスツールは授業に伴う情報の提供である。	調べ学習のため、教養を深めるためのレファレンスサービスの提供	授業に関連した資料があり、「今」を知ることができる場である。
3 図書館教育・コンピュータ教育の連携で作成する情報教育カリキュラム	中條敏江	『学校図書館』674号, 2006, p. 23-27.	図書館教育担当とコンピュータ教育担当が密な連携を図る	図書・年間等図書資料、コンピュータ等	教科学習での利用
4 学校図書館を学校経営にどう位置づけるか	小谷田照代	『学校図書館』683号, 2007, p. 73-75.	(司書教諭)学校教育目標の一つに図書館教育が位置づけられる	図書資料等	学校図書館を使った授業
5 学校図書館教育を学校経営の中核に	松村真一郎	『学校図書館』713号, 2010, p. 20-22.	(学校長)学校経営方針で学校図書館教育を学校経営の中核にする。	図書、参考図書等	図書館による授業支援
6 学校経営および新しい国語教科書の視点から	関口修司	『学校図書館』722号, 2010, p. 21-23.	(学校長)学校経営としてNIEのカリキュラム化に取り組む	メディアリテラシー、情報リテラシーとしての図書利活用	学校図書館を使った授業

表3 学校図書館・カリキュラムの分析

1	論題	著者名	雑誌名	担当する人のカリキュラムへの意識	メディア(図書資料含む)利活用	学校図書館設備の利活用
1	情報活用教育カリキュラムの諸要因に関する考察:「情報科」における問題解決学習の技能	小田 光宏 野末 俊比古 古賀 節子	年会論文集 (18), 240-243, 2002-08-31	「情報科」教諭に求められる諸技能は、図書館情報学において扱われてきたものに依拠していることから、学校においては、司書教諭の果たす役割が重要である。	メディア(図書資料含む)利活用 司書教諭の技能は「情報科」で扱われる問題解決学習に必要となる「情報メディア」に関する技能である。また、技能の内容は、情報機器やアプリケーションの「操作技術」にかかわるものと「情報源(メディア)の利用技術」にかかわるものである。	コンピュータやデジタル情報、既存の印刷メディアや視聴覚メディアを含む。
2	問題解決学習カリキュラムの設計をめぐる課題:ガイドラインの提案(情報教育一般)	野末 俊比古 小田 光宏	日本教育情報学会年会論文集 (20), 254-257, 2004-08-10	運営の中心になるのが、「メディアスペシャリスト」としての司書教諭である。教科・科目等と学校図書館との連携あるいは教科等担当教諭と司書教諭の協力や、マネジメントサイクルの考え方の明確化が重要。	印刷メディア(プリントなど)のほか、視聴覚メディア(ビデオなど)、電子メディア(コンピュータやインターネットなど)など多様なメディアを活用する。	学校図書館を活用する。また、地域の公共図書館など、校外の資源も視野に入れる。
3	ネットワーク組織としての学校図書館	木内 公一郎	上田女子短期大学紀要 No.28	学校図書館は学校組織から独立しては存在できない。ネットワークの一部を形成しているという意識をもち、様々な立場の人々とコミュニケーションを重視していくことも重要ではないだろうか。	学校図書館システム、LAN、図書館資料の提供システムなど道具的ネットワークの主要な部分を構成する。	学校図書館は「道具的ネットワーク」というインフラストラクチャーとしての役割を果たしている。
4	自校のカリキュラムに合ったレファレンスツールの作成(特集レファレンスツールの整備と活用)	宗 愛子	学校図書館 (657), 28-30, 2005-07	学校図書館のレファレンスツールは、自校のカリキュラムにあったツールを以下に整備するかが重要である。	百科事典や各種事典類といったレファレンスブック、舞台・映画情報、展覧会情報ファイル、コンクール情報、書評ファイル、新聞活用ファイル	OPACの利活用
5	図書館教育・コンピュータ教育の連携で作成する情報教育カリキュラム(特集 学校図書館と情報教育)	中條 敏江	学校図書館 (674), 23-27, 2006-12	図書館教育担当とコンピュータ教育担当が密な連携を図りつつ、より具体的な指導時間や内容を示し、現実的で実施可能な情報教育カリキュラムを作成し運用した。	図鑑、年間、資料集パンフレット	情報教育のリテラシーのカリキュラム(学校図書館とコンピュータ教室)

3.1 人の役割

人では、司書教諭が、運営や教科等担当教諭との連携・協力の中心としてネットワークの一部を形成しているという意識をもつこと、様々な立場の人々とコミュニケーションを重視していくことで、カリキュラムに関わることが重要だと述べている。

3.2 図書資料を含むメディアの利活用

図書資料を含むメディアでは、司書教諭の技能は印刷メディアのほか、視聴覚メディア・電子メディアなど多様なメディアを活用する「情報メディア」に関する技能であり、その内容は、操作技術にかかわるものと情報源(メディア)の利用技術にかかわるものであると述べている。

3.3 施設と設備の範囲と利活用

施設と設備では、既存の印刷メディアや視聴覚メディアをも含むコンピューターやデジタル情報も含める学校図書館を示している。また、地域の公共図書館などの校外の資源も視野に入れたインフラストラクチャーとしての役割をOPACの利活用が果たしているとも述べている。以上のように、学校経営と学校図書館経営との関わりは多くが学校図書館担当者の役割から論じられ、学校図書館経営では、学校図書館によるカリキュラム支援は明確になっていない。

3.4 カリキュラム・マネジメント実践校の学校図書館利活用事例

日本におけるカリキュラム・マネジメントはカリキュラム開発で論じられている。そこで、

カリキュラム・マネジメント理論をカリキュラム開発で実践している学校において学校図書館の活用を分析する。日本におけるカリキュラム開発の先行研究において事例として紹介されている実践報告書3点²⁴を、1. 人、2. 図書資料を含むメディア、3. 施設と設備の3つの視点から分析し、そのうちのどれが学校図書館とカリキュラム・マネジメントを結ぶ要因であるのかをするため分析を表にまとめたのが表4である。

3.4.1 人のカリキュラム意識

学校図書館の人では、A校は、司書教諭が中心となって「資料活用学習」と「探究の仕方」の計画を立て、それを皆で共有した上で実践していると司書教諭の関わりを述べている。一方、B校は、6年間で系統立てた新たなカリキュラム開発を行っている述べ、C校は学びの構造図（耕す力・知る力・生かす力・考える力）や調査体験および交流体験を行っており、2校とも資料の収集や提供について言及していない。

3.4.2 図書資料を含むメディア

A校では、情報・メディアを活用する学び

方の指導体系表からの項目化を行っている。一方、B校では、英語のリーディング課題があることを述べ、C校では、朝読書や卒業論文がある。2校とも資料の活用が盛んであることから、学校図書館による資料提供があることが窺える。

3.4.3 施設と設備

施設と設備については、A校では、学校図書館資料の活用および図書の共同利用制度について述べているが、B校とC校では、資料を収集・管理・提供する学校図書館の利活用への言及がなかった。

3.5 本章のまとめ

カリキュラム・マネジメント実践校における学校図書館利活用の事例から、学校図書館利活用にインパクトがあるのは、1. 人、2. 図書資料を含むメディア、3. 施設と設備のうちでは人が重要であることがわかった。学校図書館の人は、学校図書館法の第5条規定により、そこで、カリキュラム支援を担当する司書教諭が学校図書館活用を学校経営のカリキュラムにどう関わるかが課題となる。

表4 カリキュラム開発でカリキュラムマネジメントを実践している学校と学校図書館活用

	論題	実践校	文献	カリキュラムマネジメントへの言及	人のカリキュラム意識	メディア(図書資料含む)利活用に関連する項目
A	「教科と総合で読む・読む・読む！」	札幌市立陵北中学校	中野和光『教科の充実で学力を伸ばす』ぎょうせい、2004、196p.(特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第2巻)	全体のカリキュラムを考える場合、必ず各教科の兼ね合いを見なければならぬ。	司書教諭が中心となって「資料活用学習」と「探究の仕方」の計画を立て、それを皆で共有した上で実践している。	情報・メディアを活用する学び方の指導体系表からの項目化
B	「世界に通じる骨太の人間の育成をめざして」	新潟市立村上中等教育学校	天笠茂『学校間・学校内外の連携を進める』ぎょうせい、2004、206p.(特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第4巻)	授業やカリキュラムにおける中等教育学校としてのカリキュラム開発	6年間で系統立てた新たなカリキュラム開発	リーディング課題(英語)
C	「夢や願いが私のものに！」教科学習と総合的な学習の時間の共鳴	箕輪町立箕輪中学校	児島邦宏『確かな学力をばぐむ教育組織の多様化・弾力化』ぎょうせい、2004、199p.(特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第5巻)	学校独自のカリキュラムを構成する	学びの構造図(耕す力、知る力、生かす力、考える力)調査体験、交流体験	朝読書、卒業論文

4 司書教諭のカリキュラム支援とカリキュラム・マネジメント

司書教諭の設置根拠は学校図書館法第5条第1項にあり、12学級以上の学校には必ず置かなければならない（11学級以下の学校については、当分の間、設置を猶予）人である。司書教諭の業務は学校図書館の専門的職務を掌るというものであるのに対し、学校司書は図書館の専門的事務に従事することを業務としている。

では、司書教諭の専門的職務とは何だろうか。1959年刊行の文部省編『学校図書館の手びき』²⁵には、“昭和27年に文部省では、学校図書館における司書・司書補に相当する職務の内容を示したことがある。（中略）A 管理的職務 1 学校図書館運営の総合計画の立案・実施と学校の教育計画への寄与（以下17まで略） B 技術的職務 1 図書館資料の選択・構成（以下12まで略） C 奉仕・指導的職務 1 館

内閲覧の事務（以下12まで略）”と指摘されている。つまり、Aの管理的職務1には、“学校図書館運営の総合計画の立案・実施と学校の教育計画への寄与”することが示されているように、学校図書館法にいう“教育課程の展開に寄与”の表れであり、カリキュラムの支援にあたると言える。そこで、司書教諭の具体的活動をメディアの利活用とその内容、実施の成果、司書教諭の職務意識から分析する。A校では司書教諭が行った実践の報告であり、カリキュラムとの関わりで学校図書館活用を行なっている。その点から当該校の司書教諭の報告を検索し、経年の実践報告を見つけることができた。調査対象として資料は学校図書館の専門誌である『学校図書館』の記事²⁶に掲載されたものである。2002年に「表現活動と必然性から育つ読書力」、2003年に「系統的に繰り返し行う分類指導」、2004年に3章で取り上げた「教科と総合で読

表5 司書教諭の学校図書館活用実践(表中のカッコ内は当該文献の該当頁数)

掲載誌・発表年	論題	記述内容の概略		
		メディアの利活用とその内容	実践による成果	司書教諭の職務への意識
『学校図書館』No. 621, 2002.	「表現活動と必然性から育つ読書力」	図書：朝の読書「TIME」から総合Aへ 新聞：NIE(News paper In Education)への取り組みを通じた情報を読む力の育成	新たな発見をしたり、自分の中で深まりや広がりを見いだす(37) 文章も上手になり、感想・意見もなかなかの射た鋭いものになっていった(38)	本来読書とは評価とは結びつかない楽しみとしてあるべきだが、学校という教育機関の行なわれる活動として、生徒の興味・関心・意欲といったものを大切にしつつ少しだけ指導を加えてみた(38)
『学校図書館』No. 635, 2003.	「系統的に繰り返し行う分類指導」	図書：日本十新分類法の指導、ほとんどのクラスに司書教諭が入り、国語科担当教諭とのTTで行った(48)	図書館学活：図書館利用や貸出もぐんと増える(49) 図書委員がNDCをよく知り活動する(49)	年度初めの、図書館経営計画を職員会議で提案(中略)生徒にNDCを意識させるようお願いする(47) (NDC)の系統的な指導が生涯学習にまで発展する(50) 図書館を使う授業の際にはなるべくTTで入る(49)
中野和光『教科の充実に学力を伸ばす』ぎょうせい、2004、196p.(特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発第2巻)	「教科と総合で読む・読む・読む！」	市販の「情報カード」を購入して使わせ、いろいろな場面で繰り返しその利用法を指導している(50)。NIE(「教育に新聞を！」という運動)とともからめて1年生を対象に「新聞比べ読み」の時間をとっている(52)	成果：「学び方の指導」は次第に無理なく生徒の中に定着していく(45)。課題：資料の適格性、指導者の問題。教科の担当者と打ち合わせする時間もなかなか持てない。コンピューター等の電子メディアの活用についての指導(50-51)	カリキュラムの中に、資料を「読む探究する」学習や「探求の仕方」が、何科で何年生の何月ごろに設定されているかを皆が知ること(42)→図書館の指導に関する教科アンケート(43)→各教科の図書館での調べ学習の際には(中略)できる限りTTで入るようにしている(45)→実践結果一覧表(46-49)
『学校図書館』No. 677, 2007.	「研修は校内理解を深める第一歩」	図書や新聞：図書館でNDC学習、NIEによる新聞活用法、情報カード作成法 情報：パソコン室でレポート作り	大変熱心に、時には質問もしながら研修する(31) アドバイスをし合う先生も(31)	司書教諭が単独で設定するものはなかった(中略)教務部主催の研修会に組み込んでもらう(29-30) 研修会がいかに効果的か(32)

む・読む・読む!」、2007年に「研修は校内理解を深める第一歩」²⁷と出されており、司書教諭としての活動内容を経年で見るができるため表5に示した。なお、引用文の後の数字は資料の該当ページである。

4.1 メディアの利活用と方法の深化

2002年の段階では、メディアの利活用は朝読書や総合 A のための図書資料の利用や情報を読む力の育成のための新聞を読む活動への取り組みであった。これらは、司書教諭としての活動の発端といえる。2003年には、日本十新分類法の指導を国語科担当教諭との TT で行っている。司書教諭としての授業での活動の時間を確保したことで、司書教諭としての立場を校内にアピールし司書教諭の役割を広報したと言える。さらに、2004年には、カリキュラム開発の取組におけるメディアの利活用は、司書教諭がいろいろな場面で繰り返し利用法を指導し、司書教諭によるメディア利活用の指導時間を時間割に編入するまでに深化している。その結果、2007年の報告では、司書教諭による校内研修を実施し、「大変熱心に、時には質問もしながら（中略）アドバイスし合う（31）」という研修であったと報告されている。メディアの利活用とその方法が校内で共有されるほど深化している。

4.2 実践の成果と司書教諭からのカリキュラムへの関わりの変容

2002年の段階では、「本来読書とは評価とは結びつかない楽しみとしてあるべきだが、学校という教育機関の行なわれる活動として、生徒の興味・関心・意欲といったものを大切にしつつ少しだけ指導を加えてみた（38）」と述べているように、読書指導の延長上に学校図書館による指導を置いている。ところが、2003年の段階になると、「年度初めの、図書館経営計画を

職員会議で提案（中略）生徒に NDC を意識させるようお願いする（47）」するようになり、司書教諭の意識が“(NDC)の系統的な指導が生涯学習にまで発展する（50）”ことに向かい、結果として、“図書館を使う授業の際にはなるべく TT で入る（49）”という司書教諭としての活動を行っている。さらに、2004年のカリキュラム開発の取組の報告では、“カリキュラムの中に、資料を「読む（探究する）」学習や「探究の仕方」が、何科で何年生の何月ごろに設定されているかを皆が知ること（42）」が重要であると認識し、“図書館の指導に関する教科アンケートを行い、各教科の図書館での調べ学習の際には TT で入るようにし、その実践結果を一覧表にして全職員に配布（46-49）」したことを報告している。その結果、司書教諭の学校図書館がカリキュラムに関わることへの認識が“教務部主催の研修会に組み込んでもらう（29-30）”という意識になり、“研修会がいかに効果的か（32）”という認識に至っている。

以上の変化は、実践の成果から司書教諭がカリキュラム支援をどのように行うかというプロセスをみることができる。

5 結論

結論として、学校経営においてはカリキュラムとの関わりで教育資源への言及があるが、学校経営の下位概念としての学校図書館経営には言及がないことが明らかになった。一方の学校図書館では、学校経営全体を見通したカリキュラム・マネジメントに言及がない。しかし、学校図書館経営の一環としてカリキュラムに関わる必要が議論されていた。学校図書館経営におけるカリキュラム支援を司書教諭の視点で見た場合を取り上げ、4章では司書教諭による学校図書館活用の深化の過程を分析した。

分析と考察の結果、学校図書館経営とカリ

キュラムとの関わりで次の3点が明確になった。1つ目は学校図書館担当者である司書教諭によるカリキュラムへの意識的な働きかけである。2つ目は図書資料を含むメディアの活用では教科との連携によって指導が有効であるという点である。3つ目は、学校全体がカリキュラム・マネジメントを意識した学校図書館活用に取り組むことで、メディアの活用が無理なく生徒の中に定着したと評価されている点である。以上によって、学校図書館がカリキュラム・マネジメントの一環としてカリキュラム支援を行うことの意義が明らかになった

今後の題は、学校図書館によるカリキュラム支援が、カリキュラムの編成・実施・評価のどの段階で行われるのが、より効果的であるかということ、および、カリキュラム・マネジメントに学校図書館経営を掌る司書教諭がどのような立場で参画してゆくことが有効であるかを検討することである。

注・引用文献

- 1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成28年12月21日。 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf（参照2017.10.5）
- 2) 平成27年9月14日初等中等教育分科会（第100回） 配付資料4. 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策（1）「カリキュラム・マネジメント」の重要性
- 3) 文部科学省、前掲1）p.23.
- 4) 文部科学省「平成27年第100回中央教育審議会『学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する教育目標を実現するために、

学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、どのようにそれを実・評価し改善していくのか』、「教育課程企画特別部会 論点整理」p.21. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afldfile/2015/12/11/1361110.pdf（参照2017.10.6.）

- 5) 文部科学省「称学校学習指導要領」 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf 中学校も同じ。
- 6) 前掲4）、p.23. 「（学校全体としての取組）
○「カリキュラム・マネジメント」については、校長又は園長を中心としつつ、教科等の縦割りや学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことができるよう、学校の組織及び運営についても見直しを図る必要が。そのためには、管理職のみならず全ての教職員がその必要性を理解し、日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む必要がある。また、学習指導要領等を豊かに読み取りながら、各学校の子供たちの姿や地域の実情等と指導内容を照らし合わせ、効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方等について、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも考えられる。○こうした「カリキュラム・マネジメント」については、管理職のみならず、全ての教職員が責任を持ち、そのために必要な力を、下記（2）に示す支援方策等を通じて、教員一人一人が身に付けられるようにしていくことが必要である。また、「社会に開かれた教育課程」の観点からは、学校内だけではなく、保護者や地域の人々等を巻き込

- んだ「カリキュラム・マネジメント」を確立していくことも重要である。」 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf（参照2017.10.9.）
- 7) 中央教育審議会答申「今後の学校の管理・運営の在り方について」（平成15年12月）
<http://fish.miracle.ne.jp/adaken/toshin/tosin24.pdf#search='中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について'>（参照2017.10.9.）
 - 8) 学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について（通知）、平成10年3月18日、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1327076.htm（参照2017.10.6.）
 - 9) 学校図書館司書教諭講習規程（昭和29年8月6日文部省令第21号）
 - 10) 例として、2009年10月15日の「全国学校図書館協議会学校図書館司書教諭講習講義要綱作成委員会制定」の講義要綱では、「カリキュラム編成と学校図書館」の項を設け解説している。<http://www.j-sla.or.jp/material/kijun/post-13.html>（2014.9.23参照）
 - 11) 「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学習指導と学校図書館』全国学校図書館協議会、2010、p.20.
 - 12) 「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『学習指導と学校図書館』全国学校図書館協議会、2010、p.20.
 - 13) 高倉翔他編『現代学校経営用語辞典』第一法規出版、1980、p.54.
 - 14) 中留武昭・田村知子『カリキュラム・マネジメントが学校を変える』学事出版、2004、p.10.
 - 15) 前掲14) の p.11.
 - 16) 渡辺重夫『学校図書館の力』勉誠出版、2013、p.83.
 - 17) 関野栄子「小学校カリキュラムマネジメントに関する研究－言葉による表現力を伸ばすためのマネジメントモデルの作成－」神奈川県立総合教育センター長期研修員研究報告 4、2006、p.5-p.8. <http://kjed.ctr.pref.kanagawa.jp/chouken04/chouken402.pdf>、（参照2017-05-25）
 - 18) 鎌田和宏「次期学習指導要領の理念具現化に貢献する学校図書館：カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングが鍵（特集 新しい学習指導要領を読む）」学校図書館、2017、p.17-19、2017.
 - 19) 川瀬綾子、西尾純子、村上泰子、北克一、「マルチメディアと図書館」研究グループ「教育の情報化時代の『チームとしての学校』と学校図書館の役割（特集・第58回研究大会グループ研究発表）」図書館界、2017、p.140-p.150.
 - 20) 日本では、1999年に中留武昭が「総合的学習のカリキュラム・マネジメント教育行政からの支援体制をどうするのか（特集1 学校教育－総合的な学習と教科学習との関連）」『日本教材文化研究財団研究紀要』No. 29、1999、p.28-32. としてカリキュラム・マネジメントに言及し、総合的な学習の時間との関わりでカリキュラム・マネジメントの体系化を試みている。
 - 21) 前掲11) の p.83.
 - 22) 学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について（報告）」平成26年3月31日、http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/

afieldfile/2014/04/01/1346119_1.pdfhtml、
(参照2014-05-25).

- 23) 学校図書館法の一部を改正する法律案に対する附帯決議(参議院) http://www.sangiin.go.jp/japanese/gianjoho/ketsugi/current/f068_061902.pdf (参照2017.10.5).
- 24) ・中野和光『教科の充実で学力を伸ばす』ぎょうせい、2004、196p. (特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第2巻)
・天笠茂『学校間・学校内外の連携を進める』ぎょうせい、2004、206p. (特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第4巻)
・兄島邦宏『確かな学力をはぐくむ教育組織の多様化・弾力化』ぎょうせい、2004、199p. (特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第5巻)
- 25) 文部省編『学校図書館運営の手びき』明治図書、1959、p.58-59.
- 26) ・佐藤敬子「表現活動と必然性から育つ読書力」『学校図書館』No621、2002.
・佐藤敬子「系統的に繰り返し行う分類指導」『学校図書館』No635、2003.
・佐藤敬子「研修は校内理解を深める第一歩」『学校図書館』No677、2007.
- 27) 佐藤敬子「教科と総合で読む・読む・読む!」、中野和光『教科の充実で学力を伸ばす』ぎょうせい、2004、196p. (特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発；第2巻)